

第2回 I F N E C 執行委員会会合 園田政務官代表挨拶（和文）

1. 序

- ・ 日本代表の内閣府大臣政務官の園田康博です。
- ・ 今回このように I F N E C 会合をホストして下さったポーランド政府に感謝申し上げます。
- ・ また、アルゼンチンとオランダが、新たに「参加国」として本会合に参加されたことを心より歓迎します。
- ・ 本会合において、今後の原子力利用の在り方について皆様と共に議論できることは大変喜ばしく、実りある成果が得られることを願っております。

2. 国際社会に対して（「お礼」、「情報公開」を中心に）

- ・ 我が国は、3月11日に発生した東日本大震災及び津波に伴う福島原子力発電所事故に見舞われましたが、各国及び I A E A の専門家からの助言、防護服や滞留水処理システム、遠隔操作ロボットの提供などの国際協力が大きな助けとなっています。I F N E C メンバーをはじめとする世界各国から頂いた温かい支援と連携に対し、この場をかりて深く感謝申し上げます。
- ・ 今後の進捗については、まだ不確実性も残りますが、我々は、原発事故が再発することのないよう、国際的な視点に立って原因を徹底的に究明し、国際社会に対し、正確かつ迅速にあらゆる情報を提供してまいります。
- ・ 福島の再生なくして日本の信頼回復はありません、我々は、福島事故の収束を最優先事項として、「放射線量の大幅な抑制」が達成できるよう、原子炉の冷温停止、汚染水の処理による漏えいリスクの低減等に全力を注ぎ、作業員の方々の安全確保に最大限努めつつ、事故収束に向けた工程表の着実な実現を図ります。
- ・ また、我が国の原子力安全規制の組織体制については、「規制と利用の分離」を実現すべく、来年4月をめどに「原子力安全庁」を発足させる予定です。

3. 我が国の原子力政策の現状と今後

- ・ 一方、我が国の事故の後も、原子力エネルギーの安全な利用を促進することは依然として世界的な課題であると承知しております。このため、我が国は、原子力利用を模索する国々の関心に応えます。数年来、エネルギー安全保障や地球温暖化防止のため、新興諸国を始め、世界の多くの国々が原子力の利用を真剣に模索し、我が国は原子力安全の向上を含めた支援をしてきました。また、今回の東京電力福島原子力発電所事故から徹底的に教訓をくみ取り、得られた教訓を今後も国際社会と共有していくことは我が国の責務と考えます。既に二度にわたり、事故経過報告書を I A E A に提示しましたが、今後も我が国は積極的に各国と情報共有してまいります。また、我が国自身の原子力発電の安全性を世界最高水準にまで高めてまいります。
- ・ 我が国としては、今回の事故を踏まえて、原子力発電の安全性の向上のため

の取組も強化してまいります。再生可能エネルギーの開発・利用の拡大も主導してまいります。我が国の中長期的なエネルギー構成の在り方を示す「エネルギー・環境戦略」を、来年の夏をめどに策定します。

- ・ このエネルギー・環境戦略は、「安全・安心」、「安定供給」、「経済効率性」、「環境への適合」の並立という要請に応えることに挑戦するものであり、新たなエネルギーシステムに関する、国民合意の形成を目指すものです。
- ・ この過程で、我が国は各国及び I A E A 等の国際機関と協力して、より安全な原子力の未来の創造に向けて積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

4. 我が国の I F N E C についての認識、貢献

- ・ I F N E C は、各国共通の議題の解決に向け、原子力安全、核セキュリティ及び核不拡散を確保しつつ、原子力エネルギーの平和的利用促進のために互恵的なアプローチにより協力する場を提供する国際的枠組みであると認識しています。
- ・ 我が国は、今後も I F N E C の主旨に賛同し、また、I F N E C 運営委員会副議長国として、また、燃料供給サービスWGの共同議長国として貢献してまいります。
- ・ アジア地域においては、今後も増大するエネルギー需要に応えるために、福島事故後においても原子力発電の新規導入に対するニーズは高いものと認識しています。
- ・ こうした世界的なニーズに応え、我々がより安全な原子力の未来を築くためには、その担い手となる原子力専門家の育成が不可欠です。また、信頼できる燃料供給サービスシステムの構築も重要な課題です。
- ・ I F N E C の2つのWGである基盤整備WGと燃料供給サービスWGにおける取組は、最高水準の安全を達成するために必要な原子力専門家の育成の一翼を担うものであり、また、望ましい包括的な燃料供給サービスの在り方を検討する場を各国に提供するものと認識し、この分野での協力を継続してまいりたいと考えております。

5. 結語

- ・ 最後に、今回の事故の収束に向けて、様々な面で世界各国から支援していただいていることについて改めて心から感謝申し上げます。事故の収束には多大な困難が伴いますが、世界の英知を結集して、必ずこの事故を乗り越えることができると確信しています。
- ・ ご清聴ありがとうございました。